

弓道なごの

第35号

発行：長野県弓道連盟
会長 山川茂樹
〒396-0025
伊那市荒井3919-3
TEL.0265(72)3060
編集：県弓連広報部
印刷：榊宮澤印刷

巻頭言

現代弓道の発展を願って

長野県弓道連盟副会長 宮下 重敬



現代弓道は青少年から高齢者まで広く親しまれ、全日本弓道連盟の登録者は平成十六年度に十三万人を超えて以来増加の傾向にあり、平成二十年度で十三万七千人余りである。月刊誌『武道』（二〇〇九年十月号）に吉本清信全弓連指導委員会委員長（現副会長）が、「弓道・少年指導の現状と課題・対策」と題して執筆されている。中に平成十一年から二十年までの登録者数が、中学・高校・大学・一般について男女別に掲載されており、十年間の推

移が分かる。男女比では、男子が五二〜五三%とやや多い。また、中高生が全体の半数を超えている。中高生は殆どが部活動で初めて弓道を学ぶ。生徒数・学校数が減少している中、部員数は十年間ほぼ横ばいであり、弓道部活動の人気が伺える。長野県では、審査部の二十一年十一月の調べによると中高生二八七三人、大学・高専生二三五人、一般一五一六人で計四六二四人。中高生が六二%強を占める。社会人対象の初心者弓道教室は各地で開催されてい



千曲市弓道場にて(筆者近影)

る。長野市では、今年度保護者同伴を条件に中学生も募集した。夜の部三三人中五人が中学生であった。親子・姉妹で学んだ受講生もあり中学生全員が皆勤賞で終了し、現在も講師陣の特別な指導のもとに練習が続いている。受講の動機は、弓道に興味があった、再開したいと思っていた、定年後の心身の健康、子どもが弓道部へ入部、集中力をつけたい、動作や姿勢の美しさに惹かれて、など様々である。

現代弓道については、『弓道教本』第一巻序論に最高目標（真・善・美）、弓道の二つの面（楽しむ弓道と苦行する弓道、合理性と非合理性、技と心など）など縷々述べられている。私は概観すれば、的中を競う「明るく近代的なスポーツ性」と日本の伝統的な運動文化の「武道の心」が融合しているのが現代弓道であり、弓道の魅力と人気の秘密があると思う。

少子高齢化社会が進む中で、弓道界の充実発展には一般社会人の弓道愛好者の増加が不可欠であろう。それには高校・大学弓道部卒業生を積極的に受け入れる指導体制を含めた環境づくりが必要であり、弓道教室修了者が抵抗なく続けられる明るく開放的な雰囲気づくりも大切であると感じている。

機関誌『弓道』五月号で長野県弓道連盟山川茂樹会長が武道としての弓道があるとして述べられている。我が身を省みると、未熟さを改めて認識し、次の二つを目標にして自己研鑽に励みたい。

一、「動中の静、苦中の楽」
静中の静は真の静にあらず、動処に静を得来^{わす}つて、纔に是れ性天の真境、楽処の楽は真の楽にあらず、苦中に楽を得来^{わす}つて、纔に心体の真機を見る

『菜根譚』（洪自誠）
一、「やってみせ、言つて聞かせて、させてみて、褒めてやらねば人は動かじ」
『山本五十六名言集』

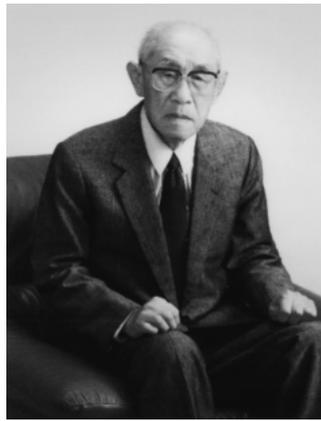
訃報

元県弓連会長長濱 與祐先生が八月十一日に逝去され、八月十四日午後一時より岡谷市内の照光寺において葬儀がしめやかに執り行われ、多くの弓道関係者が参列されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

範士十段 濱 與祐先生を偲んで

長野県弓道連盟会長 山川 茂樹



在りし日のお姿

九十有余年の生涯を弓道の探究に力をお尽くしにられました、財団法人全日本弓道連盟参与、長野県弓道連盟顧問濱與祐先生のご霊前に参じますと、先生が平成十七年に発刊されました「弓理を探って」の巻頭に掲載されております、範士九段当時の十文字に完成された円熟した美しい会のお姿が浮んでまいります。先生のご霊前に謹んで哀悼の意を捧げます。

先生は昭和十年三月県立諏訪蚕糸学校(現岡谷工業高等学校)を卒業され、四月に諏訪電気株式会社(現中部電力)に入社、長野支店管内の役職を歴任して、四十九年四月に定年退職、続いて中部電気保安協会に入会し、五十八年四月に同協会を退会されて、その生涯を電力一筋に精励し職務を全うしました。

弓道は昭和七年諏訪蚕糸学校弓道部に入部、笠原春豊師範に師事。翌八年には明治神宮体育大会中等学校の部で団体六位、個人十位とその才能を発揮しました。十年には徳武森佐範士に師事して更にその才能を磨かれました。戦後二十四年に五段に合格。二十六年に第一回一都十県連合弓道選手権大会で小的優勝。第六回広島国体で小的優勝、大的六位に入賞。この年六段に合

格しました。二十八年には窪田真太郎範士に師事して礼法を更に高めました。この年第八回愛媛国体で小的三位に入賞、十二月に錬士を拝受。この間数多くの大会に入賞して競技選手として活躍しました。三十三年に教士を拝受、続いて三十四年には七段に昇段し、より高い弓道を求めて心・技・体の充実が図られました。三十六年に第十二回全日本遠的弓道選手権大会で優勝し、お名前が京都の三十三間堂に掲額されております。更にこの年第十六回秋田国体遠的の部で優勝、四十六年に審査では最高の八段を認許されました。四十九年に第四十八回明治神宮奉納全国大会に優勝して、五十一年五月称号では最高の範士を拝受されました。その後も五十九年に第三十五回全

日本弓道大会(京都)の範士の部で二位に入賞されました。先生は競技選手として数々の輝かしい活躍の戦績をのこして、指導者の道にお入りになりました。

岡谷市体育協会弓道部長、県弓道連

盟諏訪支部長を歴任。三十八年から県弓道連盟理事に就任、四十八年に常任理事に就任して強化部長、五十年に競技部長を歴任しました。五十一年に副会長に就任してその力を更に発揮する立場となりました。五十三年には第三十三回やまびこ長野国体の競技委員長として、運営に力を尽くして大会を成功させました。五十六年から平成四年まで十年間の永きにわたり県弓道連盟の会長に就任して、常に「弓の心」「礼の心」を会員に指導するとともに、県弓道連盟の発展と充実に尽くした功績は偉大であります。また平成四年には各方面に働きかけ、弓道の殿堂県営飯田弓道場を竣工させた功績も多大なものがあります。

この間県体育協会の理事に就任、体協の運営に力を尽くすとともに、北信越弓道連合会の会長を二回にわたって務めるなど要職を歴任されました。

一方全日本弓道連盟においては、五十年に中央審査員、五十一年に中央講習会講師に任命され中央で開催される

各講習会の講師として、また審査員としてその卓越した指導力を発揮した功績は多大であります。特にヨーロッパ弓道の指導にも力を入れて六十一年にスイス、六十三年にフランス、六十四年にはドイツと海外の弓道発展に尽くした功績も大きなものがあります。

五十九年に全日本弓道連盟理事に就任、六十一年に指導委員長、六十三年には競技委員長の要職に就任して、その力を充分に発揮しました。特に副読本「弓札・弓法問答集」の原案を作成するなどその功績は多大であります。このように幾多の功績により平成四年九段に推薦されました。

地域の弓道普及振興にも力を入れ、四十八年四月自宅に弓道場誠道館を新築して、会員の指導に力を尽くし、多くの弓道会員の指導育成に努めました。以前より患っていた緑内障がだんだん悪くなって、歩行も困難になってきました。平成十七年の初射会するとき、「眼が悪くなって、弓ができなくなつた」と涙を流したことがあります。先生の弓に対する思いを強く感じました。

この年の七月、先生が競技選手として活躍した輝かしい記録、弓道に対する思い、弓道の進むべき道などをまとめた「弓理を探つて」を発刊されました。弓道を修練する私



矢渡しのお姿 (範士九段当時)

たちの指標となつていきます。その後先生の体力が次第に衰えていくのを感じるようになりました。

昨年九月全日本女子弓道選手権大会で、愛弟子の降旗奉子選手が優勝し、皇后杯の栄誉に輝きました。先生が審査員で会場におりましたら大変お喜びになったものと、残念でなりませんでした。

こうした先生のご功績を讃え、多くの表彰を受章されています。主な受章は県体育協会から有功章、岡谷市長表彰、六十二年に知事表彰、六十三年十一月には勲五等瑞宝章を受章しました。また平成十二年には日本武道協議会から武道功労章を受章しました。

先生は昭和五十六年から平成六年まで、法務省人権擁護委員諏訪人権擁護委員会常務委員や副会長を歴任、公職としても地域社会に多大の貢献をしています。三年には法務省人権擁護局長

表彰を受章しました。

先生の今まで成し遂げてきたご功績は誠に大きなものがあります。このご功績に対し全日本弓道連盟より、このたび弓道最高段位の十段が追授されました。県弓道連盟のため、全日本弓道

連盟のため、また国際弓道連盟のため、お力を尽くして頂きました先生のご霊前に、お礼と感謝を申しあげ謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

平成二十二年八月十四日 弔辞より

北信越国体

成年男子、完全優勝！ 成年女子、総合優勝！

ゆめ半島千葉国体への出場権をかけた北信越国体が富山県営弓道場で八月二十一・二十二日の両日行われ、本県選手の成績は成年男女が本国体出場権を得たものの、少年男女は昨年と同じく出場権は得られませんでした。成年男子は遠的・近的競技ともに圧勝し、成年女子は近的競技で挽回、総合優勝しました。少年男子は近的競技の最後の立ちで逆転され、惜しくも本国体出場を逸しました。



自信漲る成年男女のメンバー

全国高校総体 (沖縄)

健闘！初出場の岡谷南高校
男子団体16強進出！
見事！熊田ゆい選手 (下諏訪向陽高)
女子個人 3位入賞

泰阜発

県下初・中学校弓道授業実践報告

弓道授業と経験して

泰阜村弓道連盟 松島 貞治



「自ら直きの箭やを持もたば百世矢無からん」これは長野市にある弓具店のカレンダーにあった漢詩で、あいさつの題材に使わせてもらっている。自分の竹矢を持って行き、それを見せながら最初からまっすぐな竹(人)はありません、と。これを始めとして、学校でも弓の話ばかりするので、中学校長が武道の必修化や部活の将来を考え、中学生に弓道をやらせたい、については協力してほしいということになった。願ってもないことで、内容を聞いたところ、体育の授業で八時間(五十分授業八回)。月八時間あれば十分です、と言うと、そうではなく一年間で一学期の八時間だけ。それでは無理です、と言ってはみたもののせつかくの話でもあり、悩んだ末、引き受けることにした。

中学二年生二十人(男十二名、女八名)を対象に八時間。さて、八回でどうすればいいか。これだけの時間で弓道を体験させるとなると、弓道教室のような行程ではできない。しかも、授業なので弓道をやりたいという生徒の集まりではなく、また先生は、評価もしなくてはならない。スポーツの指導もいろいろな考え方があ。個人的に長く少年野球とも関わってきたが、最近明らかに子供たちへの指導の仕方が変わってきた。スパルタで鍛えるのではなく野球の楽しさを分らせる、つまり、野球嫌いをつくらない指導をすべき、という方向になつてい。今回の弓道もたったこれだけの時間なので、難しいことを教えるのではなく、弓具に触り、それを使って矢を飛ばす、そのことよって面白いものだ、ということを実感させようと考え、八時間の中で矢を番える的に向かつて離してみることを目標にした。これは、私自身のことわりもあつた。弓道は、少し経験

すると教えたくなる人が多いが、教本が基本とはいえ、初心者指導方針が確立しているとは思えない。見ていると難しいことを難しく教え、矢を番えて離すまでかなりの時間を必要とするケースが多い。今回の授業でも、私のやり方に対し、そんないい加減な指導でいいのか、と思つた仲間もいたと思う。しかし、弓に矢を番えて離してこそその弓であり、それを早く経験させなければ、弓への興味もわかないし、第一楽



体育館での授業風景

しくない。武道の必修化は、その德育的効果を求めているのだろうが、德育的効果を学んだ方がいいのかもしれない。弓を楽しんでいるこそ、礼を含めた基本体や精神のあり様を習う気持ち

ちになるのである。したがって、三回目には、弓を張って素引きをさせ、四回目には弾をつけさせる。苦勞する取懸けや手の内なども説明するより、とにかくやらせることを心がけ、八回目には、全員が遠的的に向かつて離してみる事ができた。

そんな中で感じたことをまとめてみたい。弓具は村で購入し、とりあえず十人分揃えた。交代すればうまくいくと思つたが、弾だけは全員にあつた方がよかつた。弾は、堅帽子の新しいものだったが使い込んだものをそれなりに揃えることは難しい。体育館の中で巻藁まで引かせ、最後だけグラウンドで的に向かつたが防矢ネットを張れば体育館の中で的に向かうことも十分可能と思う。指導は、泰阜村の連盟会員に手伝ってもらつたが、中学生は、心身とも柔軟で教えればすぐ覚えできるようにするので指導者は多くいて密度を濃くすれば効果的と感じた。

最後の時間に、的に向かつて矢を離れた生徒が感激している姿をみて、これでこそ弓道だ、と思つた。今後、武道必修化の中で、どのくらいの時間が確保されるのかわからないが、興味をもつた生徒に授業とは別に教えることができるれば普及につながる。各地の弓道教室でなく、学校へ指導者が出向いでできるようになればいい。小規模中学校の部活がテニスだけになつていく



最後の授業（グラウンドで遠的に向って）

この授業の四回目に、山川会長の配慮により、鈴木三成会長、土川、外蘭県連副会長に指導をいただきました。心から感謝申し上げます。

過程をみているが、将来的には、テニスの代わりに武道を選択できるようにしていきたいものだ。
中学での武道必修も今の状況では、剣道、柔道が中心になると予測されるが、弓道も十分選択できるということを知らしめる必要がある。ただ、そのために残された時間はわずかしかないが、授業時間に合わせた指導要領もあるといい。自分の射技向上が望めない現在、弓の奥深さを子供たちに伝えることで地域貢献ができればこんなうれしいことはない。
「追記」

講習会報告

北信越地連幹部講習会を受講して

長野支部 教士六段 細田 尚

「指導者は弓を引け、初心を忘れず教本第一巻にのっとって」という主任講師の林範士の挨拶で、七月十一日から二日間の講習が始まりました。緊張の中での一手指射は、気合いを込めたものの審査同様思うようにいかずに講評では多くのご指摘を受けることとなりました。まずは、行射の前半の弓構えまでの全体の流れが問題であるという点。五人で行う場合、後ろは前に合わせ、前は後ろに気を配るべきでありそれが体配の基本であるとのご指導を頂きました。また何事も一度で決めること、射礼の時に全体の動きが前から波のようにならぬように日頃の稽古で身につけるべきであると注意されました。自分の事を後回しにしても皆に合わせるのだという、人としてのあたり

「指導者は弓を引け、初心を忘れず教本第一巻にのっとって」という主任講師の林範士の挨拶で、七月十一日から二日間の講習が始まりました。緊張の中での一手指射は、気合いを込めたものの審査同様思うようにいかずに講評では多くのご指摘を受けることとなりました。まずは、行射の前半の弓構えまでの全体の流れが問題であるという点。五人で行う場合、後ろは前に合わせ、前は後ろに気を配るべきでありそれが体配の基本であるとのご指導を頂きました。また何事も一度で決めること、射礼の時に全体の動きが前から波のようにならぬように日頃の稽古で身につけるべきであると注意されました。自分の事を後回しにしても皆に合わせるのだという、人としてのあたり



平成22年度北信越地区地連幹部講習会
平成22年7月10～11日 福井県立武道館弓道場

まえの生き方を弓を通して教えられた感じがいたします。相互の間や全体の間をいかに疎かにしていたのかを反省させられた二日間です。もちろん射技についてもいろいろとご指導をして頂きましたが、特に三重十文字の構成の不備をはじめとして、基本の重要性を再認識させて頂きました。

久保田範士の講話では、望まれる指導者の条件として、情熱・協調性・実践的指導力・公平さ・正しい判断力と決断力・健康的で人望のあることが強調されておりました。また、一流の選手の条件として、素直さ・情熱・やる気・信念・創意工夫・運・そしてなによりも行動を起こす

祝！小林義行先生

平成二十二年五月二十一日、長野市体育協会より同協会理事や副会長を務めた功労者としてスポーツ振興の功労表彰を受けられました。心よりお祝い申し上げます。
(広報部・大山孝吉)



必要性をアドバイスして頂きました。二日目は、「公認指導員」についてのお話をして頂きましたが、国体等これからの弓道界の将来における様々な問題点を認識する機会となりました。微風心地よい一日目、時折矢道を小雨が濡らす二日目と変化に富んだ二日間でしたが、熱意あふれるご指導に時の過ぎるのも忘れてひたすら弓を手にしつつも、講師の言葉を聞き漏らさないようにアンテナを張り続けた講習会でありました。
この講習会に参加させて頂きましたことを感謝いたしまして報告とさせていただきます。

祝 教士合格

自分らしく、背伸びせず、
謙虚な気持ちで精進したい

上伊那支部 教士六段 久保田 智恵

仙台審査が行われたのは、二〇〇一年宮城国体の会場で、私は約十年ぶりにこの懐かしい道場で弓を引きました。初めて出場した国体で沢山の悔しい思いをしたのですが、同時に弓の楽しさや、自分が多くの方に支えられ弓を引かせて頂いているのだと実感した大会でした。



上級者講習会での一つの射礼 (中央が筆者)

そして今回、梅雨の仙台で新しい思い出ができました(牛タンも堪能)。この審査の前に、全日本の強化練習で密度の濃い稽古をさせて頂きました。また一週間前に名古屋で開催された女子講習会に参加させて頂き、日程的には大変厳しかったのですが、課題を絞って審査に臨めたことが気持ちの集中につながったように思います。審査中は「私は仙台に中つこにきたんじゃない。右手の張り」と弓手の押し、そして縦線のきいた射を一生懸命に引こう

と自分に言い聞かせていました。私は普段伊那の道場で稽古をしています。たまに山川先生と一緒に立ちで引かせて頂く事があります。その時は、ひたすら先生の呼吸や間合いを感じることに集中します。先生はあまり多くの事をおっしゃいませんが、一緒に引かせて頂く事、これ以上贅沢な、晴れの稽古があるだろうか、貴重な時間に感謝しています。

す。そして、今まで自分がそうして頂いたように、自分が誰かを支えられるように弓を引いていきたいと思えます。弓士の皆さまには、今後ともご指導いただきますよう、よろしくお願いたします。

弓仲間紹介

中野西高校弓道部

部長 二年 宮崎 麻衣

私たち中野西弓道部は一年生十七人、二年生十六人で活動しています。私たち弓道部は男女共に仲が良く、辛い時や、悩んだ時は、互いに励まし合い、精神力を高めながら、部活に励んでいます。



(前列向って右から三人目が筆者)

私たち二年生が先頭に立ち弓道部を引っ張っていくことになりました。最初の頃は先輩として後輩にどう指導して良いかわからず戸惑うこともありましたが、今は一人一人先輩としての自覚を持ち、三年生の先輩方が受け継ぎ残してくれた、中野西高校弓道部の伝統や歴史を、後輩たちに受け継いでもらえるように指導しています。

私は仲間の存在はとも大きいものだと思っています。弓道は自分との勝負ですが、実力を高めるためには、やはり仲間という存在が必要不可欠だと思っています。私たち弓道部も互いに良き仲間、良きライバルとして刺激し合い頑張っています。

また練習熱心な人が多く、部活が終わった後もみんなで自主練習をしながら、互いの射癖などを指摘し合い、互いに高め合っています。

三年生の先輩方が引退してから、

夏も少しずつ終わりに近づき、秋の多忙な大会シーズンが迫ってきました。大会前ということですが、辛いことや大変なこと、悩みや不安も沢山あると思います。しかしそんな時こそ、互いに励まし刺激を合おうことで、精神力を強くしチームとして強くなることで、私には思いますが、

思います。これからも部員全員で弓道部の絆を深めながら、協力し合い頑張っていきたいと思えます。

大会では少しでも好成績を残せたらな方向に劣らないように、

私と弓道

飯伊支部 三段 坪井 優

若輩者の私にこのような投稿の機会を与えて下さり、ありがとうございます。私と弓道との出会いは高校時。大学では馬術部に所属し、社会人となり何か趣味を、と飯田市弓道教室から再び始めた弓道も三年が経ちました。

現在、飯田市営弓道場にて藤澤先生をはじめとした多くの先生方にご指導頂いております。又、仕事後は古川先生の志誠館道場において同じ飯伊支部の中村健二君と共に、先生のご理解の下、夜間稽古をしています。最近は大会で結果がついてくる事もあり、長野県弓道近の選手権大会では想定外の技能優秀者に選ばれるなど、ますます弓道にのめり込んでいます。

私は良くも悪くも全ての結果・責任が自分に跳ね返ってくる事に弓道の魅力を感じます。ただ、こうして弓道を続けていられるのも、競技自体の魅力だけではなく、人とのつながりがあるように思います。私と同じ弓道教室で中学生から始める子もいれば、以前大会で御歳九十歳を迎える

方が自分の目の前で弓を引いておられました。そういった老若男女が、何の区別もなく同じ土俵で勝負が出来る弓道は本当に素晴らしい、稽古や大会などで様々な方との交流を通し人間形成や人脈が広がっていく事は弓道を通じていきたいと思う大きな動機となっています。

現在、行政書士として飯田市で父と二人、行政書士事務所を開いております。五年前に母が他界し、ここ数年は父と仕事・家事など分担し二人三脚でやっておりますが、弓道に時間を割けるのもこうした家族の支えがあつてこそ思っています。弓道が出来る事に感謝し、多くの方に支えられている事を自覚し、自分の射に驕らず、卑下せず、今後は馬術部の経験を生かすかいつかは流鏑馬を、と夢を馳せております。



県営飯田弓道場にて

講習会報告

女子講習会(中日本)を受講して

小諸支部 錬士六段 相原 由美子

主任講師の中川慎之先生は一日目の矢渡しの際の御自分の離れについて、暴発したと語られた。私は射手の感じ方と、見学者の捕え方は必ずしも一致しないのだと思った。しかし、暴発は雨露利かもしれないとお話が続いた時、あれが雨露利の離れだったんだと納得

出来て、心にふっくりとうれしさが、満ちていった。

二日目の講師射礼は、久田先生と大恵先生の二人一つの射礼。まるで一人が鏡に写っているようにお二人が調和して美しかった。四本の矢が吸い込まれる様にへ入った時、一分の隙も無いというのはこういう事だと思った。

六月二十六日、二十七日、二日間の女子講習会は、蒸し暑く、雨の降り続く中、名古屋の日本ガイシスポーツプラザ弓道場で開催された。



稽古(足開き)の回り方(坐して)の動作・基本の基本

〈講話の内容を抜粋すると〉
○講習会は、自分なりに仕上げた射の確認をする場所と心得よ。何かを掴み、体にしみ込ませて帰ること。
○射法に九節目があるとすれば、余韻。
○女性の有り方を受け止め、強さを自分でつくる。称号、段位に使命感、プライドを持つ事が必要である。

〈実習の内容は〉
一日目、午前中一手行射を審査方式で行い、午後一つの射礼を行った。

二日目、午前中に持的射礼、午後には射技指導、原点に立ちどまり基本体の確認の稽古。仕上げは審査方式で一人一本甲矢のみ行射。甲矢の大切さとその重みを実感して講習会は終了となった。

なお、私事であるが日程が重なった為とはいえ、今回の講習会に行きたいと言うわがまを許してくれて楽しみにしていた中国旅行に一人で出掛けた夫、久男に心から詫びと礼を言いたい。

観戦客鈴なりの弓道大会
上信越弓道大会(小諸)

第六十六回を数える本大会が、四月十八日県内はじめ群馬・新潟県などから九十人が参加し開催された。

新築なった弓道場で、小諸懐古射院笹澤会長の矢渡しから開会。桜の名所懐古園の花の見頃とも重なって、観戦客も大賑わい。これほどの一般客が弓



上信越弓道大会の風景

道大会を参観できる機会が極めて珍しい。的中に拍手が大きく沸くなど活気あふれた大会となった。なお、前日は春の大雪山、大会運営の会場

作りに大会役員は、大汗をかいた大会となったが、スムーズな運営に胸を撫で下ろした。芹沢小諸市長の藤村の言葉から引用された、『簡素に新鮮』には弓道に通じる、の祝辞に一同感銘。結果は次の通り

- 個人 ①青木五男(高崎市) ②安藤直貴(長野市) ③原澤浩之
- 団体 ①高崎(花) ②信箭会 ③長野競成会

(富岡市) 小諸弓道会 栗林正直

第三十回 丸子弓道会
弓道教室開催

第三十回となる丸子弓道会の初心者を対象とした弓道教室が開かれ多数の受講者が集まりました。

目標として「礼の心を養う」「心身の鍛錬」等を目的として四月より六月の間、二十回で毎週、火曜日・金曜日の週二回での講習となりました。期間中一連の射技、射法、体配(立射、座射)等を指導する事に重点を置きました。

開校式に於いては「弓道習得の心得」「弓具の説明」「弓牒の選定」等を行い、二回目からは、「弓牒の付け方」「執弓の姿勢」「基本の動作、歩き方、方向転換、立ち方、座り方」等を行い一連の講習に入って行き六月二十一日に無事全講習の日程を終了しました。

受講者の内容ですが一般は男子八名、女子四名ですが教室終了後会員として残ってくれる人が今迄は少なく残念でしたが、今回は全員が会員として残ってくれる事を願っています。尚親子で受講する中学生が三組あり学業の合間で一生懸命に頑張っています。将来の弓士として成長するように「エール」を送っています。

(広報部・鷹野良信)

大会結果

第50回近県弓道大会兼西澤杯争奪弓道大会

○6月12日 山ノ内弓道場(一般のみ)
個人(参加人数・33名)

- ①安藤直貴(須坂市) ②水田明美(駒ヶ根市)
 - ③林 英彦(中野市) ④西澤 徹(大町市)
 - ⑤荒井孝芳(長野市)
- 敢闘賞(賞外の全員による射詰競射)
金メダル 佐藤明次(中野市)
銀メダル 土屋義雄(中野市)
銅メダル 河野利一(飯山市)

- ▲金的賞
小山謙太郎(須坂市)・河野利一(飯山市)
杉山滋志(駒ヶ根市)

第57回全信州弓道大会

○6月13日 山ノ内弓道場

- ▲高校男子団体(三人立、37チーム参加)
①長野日大F(櫻井宏樹・小杉竜二・小山佑太)
- ②長野日大D(北原明典・宮下祥海・伊藤直紀)
- ③長野日大H(山越昌幸・赤沼諒伍・山本崇博)
- ▲高校女子団体(32チーム参加)
①立志館A(岡田摩美・畔上ほづみ・三井田 絢音)

- ②須坂東B(中島彩花・寺島久実・滝沢友望)
- ③長野日大C(竹内芽衣・朝日佑美子・海野 未樹)

- ▲一般個人(8射、参加人数・23名)
①飯田秀樹(須坂市) ②安藤直貴(須坂市)
- ③郷道隆志(中野市) ④土屋義雄(中野市)
- ⑤石田 真(飯山市)
- ▲金的賞
赤沼諒伍(長野日大)・徳武光春(中野市)・増田 亮(長野市)・安藤直貴(須坂市)

長野県弓道近的選手権大会

○6月20日 上田城跡公園弓道場 近的8射

- ▲男子・有段者の部
①亀岡英司(南佐久) ②高橋正弘(上小)
- ②飛鳥川俊郎(上伊那) ④小山謙太郎(須高)
- ⑤中村 宏(諏訪)
- ▲女子・有段者の部
①戸田裕子(上小) ②栗林 薫(松本)
- ③浦野恵未香(松本) ④中村明代(小諸)
- ⑤三石久子(飯伊)

- ▲男子・称号の部
①中野栄治(上小) ②平澤敏弘(飯伊)
- ③石田 真(飯山)
- ▲女子・称号の部
①久保田智恵(上伊那) ②民野千代子(中高)
- ③春原由美子(上小)

- ▲技能優秀賞
男子・有段者の部 坪井 優(飯伊)
- 女子・有段者の部 中村明代(小諸)

第7回全国中学生弓道大会長野県予選会

○7月3日 塩尻市弓道場

- ▲団体男子
①長野日大B ②長野日大A
- ▲団体女子(同)

- ①伊那 ②長野日大 ③安曇野
- ▲男子個人
①中村誠人(長野日大) ②大宮 樹(長野日大)
- ③黄 嘉一(長野日大)
- ▲女子個人(同)

- ①小林 萌(伊那) ②市川瑠子(豊科北)
- ③岡宮遥奈(長野日大)

- ◆第9回長野県弓道大会I-N長野
○7月19日 長野運動公園弓道場127名参加
▲中学生個人(一名参加)
①広瀬 葉(佐久東中)

▲一般団体

- ①尚弓会B (外山勇一、飯塚邦洋、神津明男)
- ②佐久A (森泉拓志、金原 正、増田 亮)
- ③尚弓会A (松倉 志、飯田秀樹、古澤金蔵)

▲一般個人

- ①飯塚邦洋 (長野) ②棚田千鶴 (長野)
- ③小池君男 (長野) ④岡田宏之 (飯山)
- ⑤高橋正弘 (上小)

◆第40回県下伊那大会

○7月19日 伊那市武道館弓道場

▲団体の部

- ①下農A (北原未来将・小木曾咲・関島礼太)
- ②諏訪混合 (池上武・原深雪・内山喜照)
- ③夢 Chiba (藤森千友貴・宮越幸・野沢和樹)

▲個人の部 (高校男子)

- ①野沢和樹 (夢 Chiba) ②宮下大毅 (赤穂)
- ②河西優太 (岡谷南)
- ▲個人の部 (高校女子)
- ①丹羽愛実 (二葉) ②土屋歩美 (東海大三)
- ②小木曾咲 (下農)

▲個人の部 (一般)

- ①石原 愛 (信大) ②足助 敦 (下諏訪)
- ③湯澤幸司 (駒ヶ根)

◆長野県弓道遠的選手権大会

兼第61回全日本弓道遠的選手権大会

長野県予選会

○8月1日 県営飯田弓道場

▲男子 (12射)

- ①中村 宏 (諏訪) 10中
- ②平澤敏弘 (飯伊) 10中
- ③松井幸彦 (安曇) 9中

▲女子 (12射)

- ①山田静香 (上伊那) 9中
- ②高山寿恵 (飯伊) 9中
- ③栗林 薫 (松本) 7中

※全日本大会県代表者

- ▲男子
平澤敏弘 (飯伊)、中村 宏 (諏訪)
- ▲女子
栗林 薫 (松本)、中村美穂 (上伊那)

◆安曇野大会

8月1日

▲高校団体の部

- ①志学館A (徳原稜紀・波多野萌・宮入菜摘)
- ②豊科D (野瀬絢香・白澤佳奈・猿田友梨)
- ③松商A (青木勇樹・五明大季・村山勇太)

▲高校個人の部

- ①白澤佳奈 (豊科) ②津田麻衣 (松商)
- ③大谷結子 (県ヶ丘)
- ▲一般団体の部
- ①池田C (吉野恒夫・北川原徳永・山田鏐二)
- ②池田D (久保 肇・北沢祐介・寺島崇治)
- ③長野運動公園 (本藤幸恵・大原由美子・中島 勁)

▲一般個人

- ①北沢祐介 (池田) ②河野利一 (飯山)、久保 肇 (池田)

◆第30回飯田市中心道沿線都市スポーツ大会

○8月8日(日) 県営飯田弓道場 282名参加

▲高校男子・個人

- ①小倉英明 (甲府工) ②三浦遼河 (弥生ヶ丘)
- ③近藤僚太 (風越) ④吉澤 匠 (飯田工)
- ⑤野溝大貴 (赤穂)

▲高校女子・個人

- ①白神裕美子 (赤穂) ②河村 遥 (下伊那農)
- ③根津真弓 (甲府商) ④小木曾咲 (下伊那農)
- ⑤川上佑果 (岡谷南)

▲一般個人

- ①倉田宗夫 (高森) ②阿部直登 (弓魂)
- ③常盤三男 (松尾) ③藤澤敏子 (かきこし)
- ⑤渡辺恵里 (中津川)

▲団体の部

- ①甲府工業 (小倉英明・赤澤慶一郎・宮下 宝)
- ②伊那駒 柴 種徳・前澤秀夫・久保田智恵)
- ③豊丘 (三島まどか・林 玲子・松枝敏広)

◆第56回大町市市制記念県下弓道大会

○8月22日 大町市運動公園弓道場 124名

▲近的・高校団体の部

- ①大町高校G (酒井優太・依田章吾・高野修二)
- ②豊科高校B (猿田友梨・前田聖也・横山拓也)
- ③美須々丘A (座間俊兆・宮田太陽・小山敏是)

▲近的・一般団体の部

- ①大町いろは (竹山晴美・西澤 徹・牛越 徹)
- ②木曾義伸A (上田 昇・野田陽子・林 義泰)
- ③木曾義伸B (黒石実男・中村憲司・松原重雄)

▲近的個人 (高校・一般共通)

- ①西沢 徹 (大町) ②松澤勇平 (穂高商業)
- ③大日方司 (大町高校) ④横山哲也 (豊科高校)
- ⑤依田章吾 (大町高校)

▲遠的個人 (高校・一般共通)

- ①西澤 徹 (大町) ②窪田知恵 (池田)
- ③酒井優太 (大町高校) ④吉野恒夫 (池田)
- ⑤前田聖也 (豊科高校)

◆第7回全国中学生弓道大会

○8月21~22日 明治神宮

▲男子個人

- 7位 中村誠人 (長野日大中学) 8射7中

◆第88回諏訪大社御射山奉射会

第60回近県弓道下諏訪大会

○8月22日 下諏訪町弓道場 225名参加

▲奉射 (遠的) の部

- ①中村 宏 (下諏訪) ②足助 敦 (下諏訪)
- ③宮坂博之 (下諏訪) ④花岡のり子 (岡谷)
- ⑤片桐拓人 (松本美須々ヶ丘)
- ▲近県・個人の部
- ①中村 宏 (下諏訪) ②長澤克彦 (下諏訪)

▲近的個人

- ③長幅政博 (下諏訪) ④原 深雪 (下諏訪)
- ⑤水田明美 (駒ヶ根)
- ▲近県・団体の部
- ①駒ヶ根 (湯澤幸司・水田明美・征矢 憲)
- ②上田城 (小林博正・手塚信之・川俣 晃)
- ③上田高校 (相澤悠斗・飯塚寛貴・金子 周)

◆第50回弓道須坂大会

○高校の部 (8月21日) 須坂市弓道場 546名

▲近的団体 (男子)

- ①長野日大H (竹内達哉・宮下祥海・櫻井宏樹)
- ②中野西C (古林 桂・丸山 輝・原 裕太)
- ③須坂A (大塚章平・氷見公一・森山和紀)

▲近的団体 (女子)

- ①長商C (堀内優奈・関満莉菜・和田莉佳子)
- ②吉田B (小林理紗・田中都朝・松田梨江)
- ③長野西B (馬場葵・西村美里紀・北村萌華)

▲近的個人 (男子)

- ①竹内達哉 (長野日大) ②宮下祥海 (長野日大)
- ③赤池直哉 (屋代) ④酒井信賢 (長野日大)
- ⑤小林和樹 (長野高専)

▲近的個人 (女子)

- ①中村友実 (長野西) ②大日方由佳 (市立長野)
- ③竹内夢乃 (屋代) ④宮川由佳 (長野南野)
- ⑤松田梨江 (長野吉田)

○一般の部 (8月22日) 77名参加

▲近的団体

- ①かちむし (高橋正弘・戸田裕子・押金 孝)
- ②一の会 (新津一夫・棚田千鶴・塩原静雄)
- ③上小B (高木賢一・飛知和明弘・佐藤 忍)

▲近的個人

- ①武田礼子 (中野土びな) ②飛知和明弘 (上小)
- ③小山謙太郎 (須坂OB) ④神田裕司 (中電) ⑤新津一夫 (一の会)

▲遠的個人

- ①高橋正弘 (かちむし) ②小山謙太郎 (須坂)

○B) ③林 英彦(土びな) ④伊藤貴啓(善光寺大仏) ⑤石田 真(飯山)

▲近的点数的団体

①尚弓会B(松倉 志・外山勇一・飯田秀樹)

②中野土びなA(武田礼子・郷道隆志・土屋 義雄)

③弦音会(峰村喜之・服部理恵子・長瀬辰彦)

△金的賞

郷道隆志(中野土びな)・井ノ浦春香(ヤゴ)

△花的

荒井孝芳(青空・外山勇一(尚弓会)・郷道隆志(中野土びな)・笠井信夫(善光寺)・飯田秀樹(尚弓会)・飛知和明弘(上小)

◆第24回北信地区高校弓道大会

○8月29日 長野運動公園弓道場 510名参加

▲団体男子の部

①須坂東A(小林直樹・小平健太郎・篠塚亮太)

②長野日大G(小山佑太・伊藤直紀・廣澤忠利)

③長野日大H(竹内達哉・宮下祥海・櫻井宏樹)

▲団体女子の部

①長野吉田C(宮沢奈緒・中沢 早・小林理紗)

②中野西B(宮崎麻衣・呉羽彩花・今井優花)

③中野立志館B(内田百花・関 愛澄・三井 田絢音)

▲男子個人の部

①遠藤融成(長野日大) ②小平健太郎(須坂東)

③宮下祥海(長野日大) ④澤田 士(長野日大)

⑤廣澤忠利(長野日大)

▲女子個人の部

①海野未樹(長野日大) ②宮沢奈緒(長野吉田)

③今井優花(中野西) ④宮川由佳(長野南)

⑤市川 聖(長野女子)

表彰

◎長野市体協

スポーツ振興功労賞(5月21日付)

小林 義行(弓道)

審査合格者

◎仙台定期中央審査(7月2日)

▽教士 久保田 智 恵(上伊那支部)

◎特別教員臨時中央審査

(香川 8月9日)

▽六段 増 田 亮(佐久支部)

◎北信越地区臨時中央審査(9月11日)

▽錬士 武 田 礼子(中高支部)

お悔やみ申し上げます(敬称略)

五段 篠 田 恵 司

(73歳)

飯田市上郷飯沼466-2

7月20日ご逝去

範士十段 濱 與 祐

(94歳)

岡谷市山下町1-19-7

8月11日ご逝去

「ふしぎ」

初めての道場へ行くと、つい扁額に目がいつてしまう。書が好きということもあるが、道場の雰囲気や醸す要素にもなっている。とくに古い道場で味のある扁額に出会うことがある。

地元のことでは恐縮だが、飯田市菅弓道場に古い扁額が二つ掛かっている。

一つは「残心」の文字が主役であるが、その脇につきの添え書きがある。

行射如流水 残心似開花
宇野要三郎先生の言葉と聞くが、ことに川の流れにたとえた「行射ハ流水ノ如ク」がイメージ的に好きである。

もう一つは「不発中」(発は異体字が使われている)。千葉胤次先生直筆のものである。読み、解釈は異論があるが、わたしは「発セズシテ中ル」と読むことにしている。会場でうまく引き納められたときの中る予感がこれに通じるのではあるまいかと。

「離してみなけりゃわからない」の口ぐせから「不発中」へ、終わりのないたたかいをくり返している。

諸賢の解釈をお聞きしてみたい。ご投稿いただけましたら幸である。

(松澤英男)

弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立 1ヶ所 (床暖房完備)
12人立 2ヶ所
遠的道場 1ヶ所

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山1003

HP: <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861